

第3回 鳴門市まちづくりデザイン会議を開催

第2回デザイン会議にて提案のあった中学生へのアンケートのほか、都市構造と都市軸、まちのコアと周辺の関係について議論しました。最後に今後のロードマップ案を提示し、未来ビジョンの策定していくことを説明しました。

参加委員：内藤座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、池田委員、安宅委員（欠席）

現状報告

中心市街地での100円商店街プラス・納涼市・阿波踊りのイベント状況を報告
本年度より実施している「リノベーションまちづくり」推進事業について報告

- ・リノベーションの講演会は、若い人も多く、すごい皆さん関心を持たれているのを感じた。
- ・アクションを起こして、定着させなければいけない。まちづくり全体の中に何らかの形で組み込んで、別途フィードバックする話があったほうがいい。
- ・駐車場を活用する、駐車場1台でも始められる、そういう活用方法など目のつけどころが違うと感じた。
- ・講演会のなかでも、土地に価値無し、エリアに価値あり、ということで、やっぱり小さなエリアでも、志をもっている方が一つ一つ変えていくことによって街の空気が変わっていく。
- ・リノベーションしていった、点を線にしていくにはどうしたらいいのか、先は長い大きな一歩と思う。
- ・空き家問題は、全国的にクローズアップされた問題、補助金などの活用を確認したほうが良い。



リノベーション
講演会の様子

第3回鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録 概要版

会議の日程

- 第1回 令和7年3月24日(月) 済
- 第2回 令和7年6月13日(金) 済
- 第3回 令和7年8月9日(土)
13時半～15時半
鳴門市役所2階大会議室
- 第4回 令和7年12月2日 予定



第3回会議の様子

アンケート結果の報告

本年6月～7月に実施した市内中学生対象のアンケート結果を報告

対象者：市内中学校に在籍する中学生

調査内容：放課後や休日の行動実態 駅周辺等の利用状況や要望、
鳴門市への愛着など

回答件数：1,135件(回答率81%) ※ 結果の詳細は、会議資料2を参照

【アンケート結果を受けての意見】

- ・実際にどこで勉強しているのかが気になる。
- ・今の若い子のリアルなところを把握しておいたほうがいい。身近なところで聞いてみて。
- ・自由に使える場所が必要だっていう意見があるが、一方では空き家が多い。
- ・お金がかからないそういうフリースペース、提供したりWi-Fiとか、過ごせる場所が欲しいという要望は圧倒的に多い。

○中学生はどこで遊ぶ？

- ・高校生に比べ、鳴門市内で遊ぶ子の割合が高い
- ・遊ぶ場所では、「友達の家」や「公園・広場」の回答も多い
→ 低予算で気軽に友達と滞在できる場のニーズ

○どんな機能が欲しい？

- ・おしゃれもいいが、安心感と安全面が大事。
→ 親が安心できる場所だと中学生も寄りやすい？
- ・友達と気軽に集まれる、一緒に勉強などができるフリーなスペース

○鳴門市のことは好き？

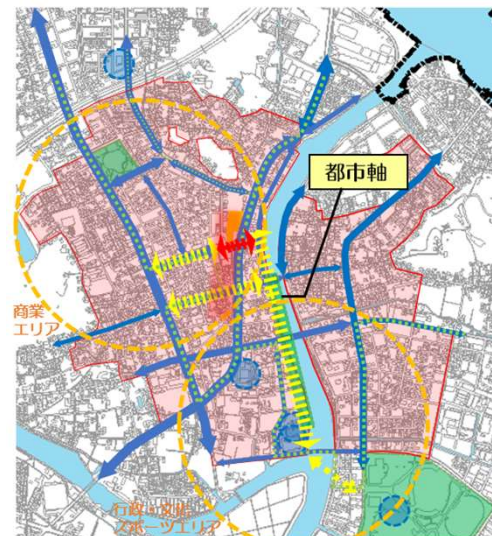
- ・9割以上の生徒が鳴門市のことが好きだと回答
→ 今後も鳴門市と関わりたいという意欲をもっている生徒が多い。家族、友達の存在や鳴門の自然の豊かさなど魅力が愛着につながっている。
- ・将来について、「まだ考えていない」生徒も一定数存在。
→ これからの経験や環境次第で、鳴門市との関わり方が大きく変わる可能性がある層。まちへの愛着を育てる取り組みを続けていくことが重要。

- ・遊んだりくつろいだりするのがメインだけど、中高生の真剣勝負は勉強する場所ではないか。
- ・家で一人で勉強する時も携帯電話で繋いでいる。競い合いよりみんなでの時代が変わってきているのでは。
- ・携帯で繋がればいいのではなく、集まる場所があれば集まる。無いから、繋いでいるだけ。
- ・商店街の実験では、現役の高校生は集まって勉強するところは欲しいというのは、皆が言う意見である。
- ・図書館などで何人か集まって、勉強して、そのあと遊びに行く流れ。地区の公民館的なものがあれば良い。
- ・子供が集まる場所が無い。友達の家では迷惑が掛からないかと心配、フリースペースがあれば助かる。
- ・空き家でも公共でも使うには管理責任の問題がある。その問題を解決しておかないと、今若い子が本当に欲しいものにこたえられない、そこはちゃんと議論する。市役所内でまとめておく必要がある。
- ・フリースペースは管理が大変。市役所の一角とか常に管理している場所で出来ないのか。
- ・情報化社会はどんどん進むが、コミュニケーションや出会いは地域にとって大事。つながる場所を用意すべき。
- ・情報環境や生活環境にしても変わってきているので、集まれる環境を用意するのは役目ではないか？
- ・管理の問題はあるが、本当に若い子は自由にしてあげたいし、自由な場所をたくさん作ってあげたい。

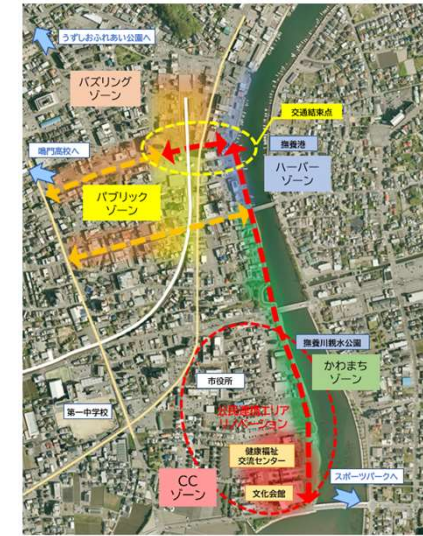
都市構造と都市軸 街のコアと周辺の関係

都市軸と都市構造について、都市軸の強化例、街のコアと周辺との関係性、コアの位置の考えかた、ウォーターフロントの活用案などについて説明し、都市軸と連動したゾーニング案を提示し説明

- 全部がいきなり変わるんじゃなくて、いい風が吹き始めるかなっていうその風を吹かせることができるか。
- 交通ネットワークを、きちんと設置することによって、新しい形ができるのではないかな。それが鳴門の活性化に繋がればいいなと考える。
- 車線を減らす、椅子を置く、芝生を植える、マルシェをするということなので、**まず絵を描いてみる、妄想してみるということをするべきだろう。**
- 鳴門公園とか大麻の一番札所とか、観光地には土日に結構人がいるんですけど何故か駅に本当に人がいないというような状況である。駅あたりに、人の流れや人が集まってくると自然に、お店とかも増えてくるのでは。
- 車線を片側1車線に減らして、ウォークアブルシティの実証実験を、鳴門でもやってみてもいいのでは？
- 谷通りは、過去には誰もが通る通りであったが、非常に寂しくなり、まちの様相が変わってしまった。まちの顔として手が入ると、今よりも絶対良くなっていく。
- **撫養川は県管理、県の港湾など、ここにどれくらい打ち解けてもらえるか結構大事。**
- 撫養川でサップとかカヤックができるようなサービスがあれば、まちなかだから景勝地のようなになるのでは。
- 東浜第2公園のあたりを釣り堀にしたらいんじゃないか。東京のまちなかにもある。
- デザイン会議には、**商売の専門家、もあれば観光の専門家、交通の専門家がいます。いろいろお話をしながらこのゾーニング案にちょっとでも近づいていけるようにしたい。**
- 不動産の観点として、エリアの中でも早急にどういうところの土地が必要になるかはある程度目星をつけていったほうがいい。



都市構造図



ゾーニング図

- 下手に土地の単価が上がると事業がしにくくなって、また衰退の道に入るといこともある。
- 撫養川は両岸で考える。まち側から見た反対側は風景となるところである。
- 連続立体交差は時間かかる。区画整理事業とともに動くことが常で10年から15年ぐらいかかる。それで間に合うか。頭端駅から考えても案の中を含めない方がいい。
- **駅の移転に関しては、JRにとっては、大問題。話をもっと深めたほうがいい。**
- **都市軸とコアについて、わかりやすく、具体的に今後進めたほうが良い。**
- 基本的に都市計画マスタープランのロジックに乗っかっている。また、立地適正化計画の理屈にも乗っかっているのでもいいと思う。

未来ビジョン

今年度の会議の内容をまとめた「鳴門市まちなか未来ビジョン」の素案を令和7年度中に作成することを説明

未来ビジョン: エリアの将来像を官民の多様な人材が共有できるようイメージ化

- 都市に関する技術的な議論、未来ビジョンの作成、国の政策確認などについて、専門的な検討・調査が必要となるため、9月議会に補正予算として計上を説明。
- 型通りのものにならないよう、出来る限りは内製化でやれるところはやってもらいたい。
- 社会実験についても検討を進めて行く。



イメージ案図

今後の検討・議論の方向性

- 今年度のロードマップを提示。年度内にあと2回ほどの会議を開催しながら未来ビジョンの策定を進める。
- **アンケートの結果は回答者に発信し、対話を繰り返していく。**
- 次回は、都市機能とコンテンツや川の活用方法のほか、社会実験などについて議論を進める。

これまでの会議で議事録や資料については、市公式ウェブサイトをご覧ください。右のQRコードからも閲覧できます。

次回は、12月2日を予定しています。ウェブサイト・広報紙にてご確認下さい。

